

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	34	学 校 名	静岡高等学校	校 長 名	織田 敦
------	----	-------	--------	-------	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的生活習慣を確立し、授業・部活動・家庭学習に主体的に取り組む生徒を育成する。	○「規則正しい生活（生活リズムを確立）している」と自己評価する生徒 80%以上 ○「朝食を食べている」生徒 90%以上	○「規則正しい生活（生活リズムを確立）している」生徒全体 68% 1年 67%、2年 67%、3年 70% ○「朝食を食べている」と答えた生徒 98.7%	B	○規則正しい生活をしていると答えた生徒は全体 68%で、R6 と同値であり、目標に届かなかった。しかし、1年生は R6：59%→67%と大きく改善している。学年部・保健室等による初期指導の効果もあると思われる。 ○98.7%と、ほぼ全員の生徒が朝食を食べている。
イ	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、知的好奇心や探究心を喚起する。	○授業を大切にする生徒、主体的に学ぶ生徒の増加 ○「授業の内容がよくわかる」、「知的好奇心を喚起する授業が行われている」と自己評価する生徒 80%以上 ○測定ツールで把握した学力に基づき授業改善に取り組む教員 90%以上 ○シラバスに沿った授業の実施 ○3観点に基づく学習評価の実施率 100%	○「授業を大切にし、主体的に学習している」生徒全体 89% ○「授業の内容がよくわかる」生徒全体 83% 「知的好奇心を喚起する授業が行われている」生徒全体 76% ○測定ツールで把握した学力に基づき授業改善に取り組む教員 100% ○シラバスに沿って、授業を実施 ○3観点に基づく学習評価実施 100%	B	○授業における ICT 活用の取組が多く見られた。特に「総合的な探究の時間」では、アンケート・プレゼン・論文作成などで、生徒が ICT を効果的に活用する力を身に付けた。 「授業を大切にし、主体的に学習している」生徒は R6：90%と比較して、ほぼ同値である。 ○「授業の内容がよくわかる」生徒の割合は、全体では目標を達成しているが、1年生については R6：82%→76%と下がっている。学習習慣、学力の定着状況等も見ながら、原因を探る必要がある。 「知的好奇心を喚起する授業」への評価は、2年生は 81%と高いものの、全体では 76%と目標達成には至らなかった。 ○「学力テスト」の結果分析や、1・2学期末実施の「生徒による授業アンケート」による分析等をもとに、各教員が授業改善を行っている。 ○各学年シラバスに沿って、授業が実施されている。 ○観点別評価における評価基準・方法等の検討を、さらに進めていく必要がある。

ウ	進路意識の高揚及び高い進路目標の達成を目指し、きめ細かな進路指導を推進する。	○「進路指導が適切に行われている」と評価する生徒 90%以上 ○「知的好奇心を喚起する事業が行われている」と評価する生徒 90%以上 ○入らなければならない大学を見つけた生徒 3年生 80%以上	○「進路指導が適切に行われている」と評価する生徒 全体 92% ○「知的好奇心を喚起する事業が行われている」と評価する生徒 全体 95% ○入らなければならない大学を見つけた生徒 3年生 78%	B ○進路講演会・浜医訪問・キャリアデザインツアーや各模擬試験の実施、進路だより等による情報の提供等により、本校進路指導への高い評価が得られていると考えられる。 ○「知的好奇心を喚起する事業」への評価は、生徒全体で 95%と非常に高い数値である。 ○「入らなければならない大学を見つけた生徒」の割合は、学年が上がるごとに数値も上がる傾向はあるものの、3年生 78%と目標達成には至らなかった。
エ	生きる力や豊かな感性を培うため、部活動、特別活動等の充実に努めるとともに、社会に貢献しようとする姿勢を育成する。	○部活動、特別活動等に積極的に取り組んでいる生徒 80%以上 ○部活動等を通じて社会貢献活動を行った生徒 80%以上 ○「挨拶ができてい」と自己評価する生徒 80%以上	○部活動に積極的に取り組んでいる生徒 全体 87% 学校行事に積極的に取り組んでいる生徒 全体 93% ○部活動・同好会 38 団体のうち 17 団体が社会貢献活動を実施、全校の約 44.7%の生徒が参加 ○「挨拶ができてい」と自己評価する生徒 全体 90%	B ○部活動、学校行事とも、積極的に取り組んでいる生徒の割合は高く、目標達成できた。R6 からマラソン大会、7 月の球技大会を中止したが、現行の行事への生徒の取組は、変わらず積極的であると言える。 ○目標の数字には至らなかった。部活動を通じて社会貢献の意義が共有された一方、計画的な地域連携、継続的な情報発信の工夫が今後の課題である。 ○生徒課長による毎朝の校門指導等も、生徒の挨拶の習慣につながっていると考えられる。
オ	校内外のプログラムや外部人材の活用、探究活動を通して、主体性や探究心、グローバルな視野、リーダーシップの育成等に努める。	○各種プログラム参加者の増加と意識の向上 ○各種講演等への参加生徒の増加と意識の向上 ○探究活動に関わる外部人材の新規開拓	○(1)名大みらい育成プロジェクト → 参加なし (2)キャリアデザインツアー → 89 名 (3)ふじのくにグローバル人材育成事業 (第2期) → 7 名 ○医学部進学講座、卒業生との交流会等を実施 ○SHIP (Shizuoka Innovation Platform) 等に外部人材の紹介を依頼	A ○(1)については、今年度は募集期間が例年より遅くなった影響もあり応募がなかった。 (2)キャリアデザインツアーは募集定員を大きく上回る希望があり、バスとホテルを調整してもなお 20 名ほど参加できない生徒がいた。 (3)については、夏季休業中に各国で探究活動を行った。事業参加生徒による留学報告会を計 3 回行った。 ○医学部進学講座、対面/オンラインで行った卒業生との交流会への積極的な参加が見られた。 ○SHIP等を通じて、県内企業人を中心として約 70 名の協力を得られた。新しい分野の方の参加もあった。

様式第3号

		○探究活動の満足度の向上 ○「グローバル・スタディーズ・プログラム」への参加生徒の満足度 90%以上	○「充実した探究活動が行われている」生徒全体 77% ○グローバル・スタディーズ・プログラム (GSP) → 22 名 満足度 100%		○探究活動への評価は R6 並みの数値である。 ○GSP 実施後のアンケートによる振り返りでは、全員が満足と回答し、9割以上が英語力の成長を実感したと回答した。
カ	心豊かな人生の実現に資する読書環境の整備に努め、図書館利用の推進を図る。	○朝の読書週間 年2回 ○LHRでの読書会 年1回 ○図書館開放日 年間 300 日以上	○朝の読書週間 年2回実施 ○LHRでの読書会 年1回実施 ○図書館開放日 年間 252 日 (予定)	B	○6月と11月の2度、朝読書週間 (10 日間) を実施した。 ○1, 2 年生で読書会を実施した。 ○図書館開放は 252 日になる予定 (7 月にエアコンが故障し、8 月, 1, 2 月の休館が増えたため。) 生徒の読書並びに学習環境維持のため、エアコンの修理は喫緊の課題である。
キ	生徒が心身ともに健康に過ごすことができ、生徒の成長・発達を支えることができる教育環境を整備する。	○健康観察を通しての情報共有 ○校内情報交換会 学期 1 回以上 ○学習環境の美化に努める生徒の育成 ○安全点検 学期 1 回 ○必要な修繕等の実施 ○施設設備の整備・充実	○健康観察を毎日実施 ○校内情報交換会 学期 1 回以上実施 ○学習環境の美化に努める生徒 全体 81% ○安全点検 年 2 回実施	B	○毎日の健康観察を通じ、心身に不調を抱える生徒や感染症情報について担任や関係職員と情報共有できた。 ○学期 1 回以上の校内情報交換会、また問題を抱える生徒に対してはその都度ケース会議を開催し、情報の共有と支援の方向性を確認できた。 ほぼ毎週 1 回、面談件数 3 件の SC 面談を実施した。 ○学習環境の美化に努める生徒の割合は R6 並みである。 ○安全点検については、学期に 1 回の実施は難しかったが、年 2 回実施することができた。 ○図書館のエアコン修理等、喫緊の課題があるが、予算措置が追い付かない状況がある。 ○施設設備の整備・充実も、可能な限りの実施にとどまっている。
ク	高い資質・能力を備えた教職員集団であるべく、常に研究・修養に努める。	○教員各自が設定した研修の実施 100% ○センター定期訪問により授業改善の意識が高まった教員 90%以上	○教員各自が設定した研修を、100%の教員が実施 ○センター定期訪問・校内研修会では、9割以上の教員が、研修を通して新たな気づきがあったと回答	A	○期首面談時に教員各自の R7 研修についての目標を確認し、期末面談時に成果を確認した。 ○センター定期訪問・校内研修会では、「学習評価に基づいた授業改善」を目標に、観点別の「主体性」に焦点をあてた各教科ごとの研修を行った。

様式第 3 号

		○授業参観週間 年 2 回 ○不祥事根絶研修の実施 毎月	○授業参観週間 年 2 回実施 ○不祥事根絶研修 毎月実施		○年 2 回の授業参観週間においては、74%以上の教員が 1 回以上授業参観を行った。 ○不祥事根絶研修については、職員会議や朝の打合せで実施した。11 月職員会議では「個人情報取扱に関する注意点」についてのチェックシートを、職員各自が実施した。
ケ	生徒・保護者及び県民から信頼される学校づくりに努めるとともに、学校の情報、魅力を積極的に発信する。	○中学生及び保護者等の土曜オープンスクールへの参加者数のべ 1,200 人以上 ○ホームページ更新 週 3 回以上 ○不適切な会計処理 0 件 ○会計及び勤務サービスに関する職員研修の実施 年 1 回以上	○土曜オープンスクールの参加者数 1,648 人 ○ホームページ更新 週 3.1 回の更新 ○不適切な会計処理 0 件 ○会計及び勤務サービスに関する職員研修 1 回、その他周知事項の伝達を複数回実施	A	○成果目標を上回った。参加者の増加から、本校の取組が中学生・保護者に浸透していると評価できる。今後は内容や日程の工夫が課題である。 ○ホームページ更新についても成果目標を達成した。継続的な情報発信ができています。引き続き、個人情報保護に配慮した広報の充実が必要である。 ○対外的に返納や追給を要する不適切な会計処理はなかった。 ○職員会議、朝打合せ等の機会を使い、会計及び勤務サービスについての研修、周知事項の伝達等を実施した。
コ	「学校における働き方改革」に組織的に取り組む。	○行事の意義や必要性を確認し、必要に応じて行事を精選 ○働きやすい年間行事予定の作成 ○ICTの活用により業務改善が図られる ○職員安全衛生委員会の実施 毎月 ○時間外勤務が月 80 時間を超える職員への管理職面談の実施 ○必要な職員について健康管理医との面談を実施	○R6 からの行事削減等による効果の検証を継続 ○教務課との検討を継続 ○ロイロノートを活用する教員の増加、ほぼ全教科で採点ソフトの活用 ○職員安全衛生委員会を毎職員会議で実施 ○年度前半で、時間外勤務が 80 時間を超えた月が 4 か月以上あった職員 8 人に、管理職面談を実施 ○健康管理医と面談した職員 0 人	A	○R6 からの行事削減（7 月球技大会・マラソン大会）及びテスト・成績処理日程の変更等について、効果は改めて大きいと感じるが、「行事を実施する意義」も考え合わせることが、今後の精選における課題である。 ○成績処理の日程や長期休業開始・終了日の調整等を、教務課と進めている。 ○採点ソフトの導入効果は非常に大きい。また、R6 は、採点及び採点後の答案の配信等に際しての大きなミスが複数回あったが、今年度は起きていない。 ○保健室からの情報提供等を活用して、効果的に実施している。 ○通常時の声掛けと並行して、11 月～12 月、職員 8 人に管理職面談を実施し、自身の働き方を見直す機会とした。 ○健康管理医との面談を希望した職員はいなかった。